

金曜日の会 報告

- 1 期日 2月12日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O, AR, AK, AS, YO

『あとかくしの雪』映像 AK

対立問題 AR

『やまなし』授業記録・映像 YO

『世界一美しいぼくの村』問題・解釈 AS

○『あとかくしの雪』では、『自分の食べるもん(も)ろくにないぐらいのもんだった(が)、』の前件ならば、『ああ、ええとも。(即答)』することなどあり得ない、そこにはよほどの原因・理由があると、これらを一連のセットで考えることを確認しました。その上で、『ああ、ええとも。』と言った百姓に迷いはあったのかなかったのかという対立を組みます。対立の原則として、教師は自分の意図する反対つまり『迷いあり』側に網を張っておく必要があります。そうして、根拠を示しながら、『迷いなし』派に反撃させるのです。また、この過程で『ああ、ええとも。』の『ええ』とはどういうことなのか、『ろくにない』とはあるののか、と言葉に入っていかななくてはなりません。更に、『けれども』は違和感をもつ言葉で、その前件には『何(を)ひとつもてなしてやるもんがない。』状況でも、旅人をもてなさなければならないよほどの理由があると考えました。そこでは、『うちにあがった。』あとに百姓がしたこととその結果を想像することが必要になると思います。あと、驚いたことは3段落の『ろくにない』と『なんにもない』の矛盾に着目したことです。後者は、相手に向けた食べ物に限定した言葉だと考えられます。

○『ああ、ええとも。』の音読で異なるイメージを作り出す授業映像では、子どもの笑いが話題になりました。イメージを作る時には、教師から集中したよい緊張感を(そんな空気を)作らなければなりません。それが、子どもたちに波及するようする必要があります。音読は、4月の早い段階から子どもの中に開放感や一体感、集中力、表現力をつけるために有効です。私も、来年度に取り組みたいと思いました。

○『世界一美しいぼくの村』では、26段落の『もうけたお金を全部使って』羊を買ったお父さんの異常な行動を問題にしました。『(まっ)白な』『こんなにきれいな』だれも持っていない羊(人々が見とれるだろう)は、明らかに家畜として買ったとは思えません。また、『もうけたお金を全部使って羊を買った』のは、予定通りか思いつきかを考えました。

○『やまなし』の記録や映像の検討は、可能な範囲で一日研の際にご検討ください。YO